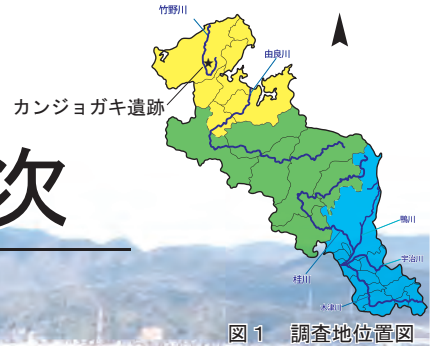


図4 カンジョガキ遺跡調査区配置図



写真5 C地区（北から）
＜後方に老田古墳群＞

京埋セ現地説明会資料 23-4
令和6年2月3日（土）



カンジョガキ遺跡第1～4次

調査場所 京丹後市大宮町周枳
調査期間 令和2年11月4日～令和6年2月末（予定）
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

4. まとめ

今回の調査では、縄文時代前期から平安時代後期まで長期にわたる生活痕跡を確認しました。弥生時代中期以降、土器や玉作り関連遺物などの出土量が増えることから谷部の利用が活発になったことがうかがえます。また、古墳時代には遺跡の東側丘陵上に老田古墳群が築造されますが、D地区でも中期古墳の周溝の一部や土器棺が見つかり、丘陵上に広く古墳が築造されたことがわかりました。

特に注目される成果は、古墳時代後期の建物群と飛鳥時代～奈良時代の横穴墓が見つかったことです。古墳時代後期には、一帯が大きく開発され、鍛冶関連の遺物が出土するなど、鉄器生産なども行われていたようです。さらに飛鳥時代には一部が墓域となり、丘陵斜面に横穴墓が築かれたことがわかりました。建物群と横穴墓群は時期的には大きな隔たりは無く、集落から墓域への変遷がわかる貴重な資料となりました。近畿地方の横穴墓は、ほぼ飛鳥時代に追葬を終えますが、丹後地域では奈良時代にも追葬が行われます。今回の調査では奈良時代に新たに横穴墓が築造されたことがわかり、丹後地域の地域的な特色を示す横穴墓の資料を得ることができました。

表1 カンジョガキ遺跡のうつりかわり

西暦	時代	おもな遺構と遺物
前900	縄文時代	縄文土器 A地区 流路遺構
	弥生時代	弥生土器 碧玉製玉類 ガラス製玉類
前期		D地区 土器棺
中期		B・D地区 古墳
600	飛鳥時代	B・C・D地区 竪穴建物
		1号横穴墓
700	奈良時代	2号横穴墓
		3号横穴墓
800	平安時代	柱列・土坑



カンジョガキ遺跡は京丹後市大宮町の南東部、竹野川右岸の丘陵谷間に位置する遺跡です。

調査では、古墳時代後期の竪穴建物11基、掘立柱建物2棟や飛鳥時代の横穴墓5基が見つかりました。竪穴建物の周辺からは、鍛冶滓やファイゴの羽口、金床石が出土し、鍛冶生産が行われていたとみられます。また、横穴墓は飛鳥時代から奈良時代にかけて築造されたことがわかりました。

表紙写真：カンジョガキ遺跡空中写真（南東から）



1. はじめに

今回の発掘調査は、国土交通省福知山河川国道事務所の依頼を受け、一般国道312号大宮峰山道路事業に伴い、令和2年度から実施しています。調査地は5か所の地区に分かれ(図4)、縄文時代から平安時代の遺構・遺物が見つかりました。今回の説明会では特に顕著な遺構を確認したB・C・D地区を中心に説明します。



図1 カンジョガキ遺跡と周辺の遺跡

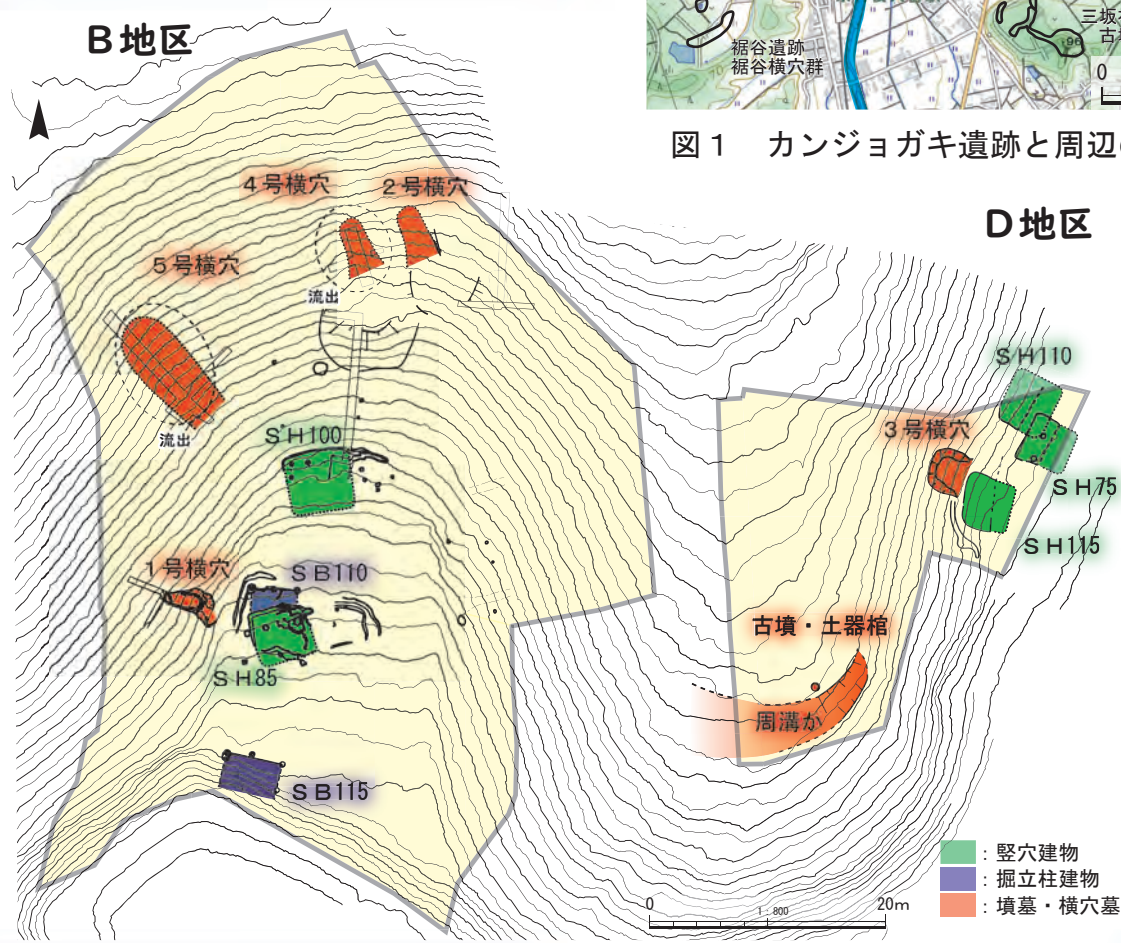


図2 カンジョガキ遺跡B・D地区

2. 古墳時代の集落

遺跡中央の谷部を取り囲むように、古墳時代後期(約1400年前)の集落が見つかりました。B地区では方形の竪穴建物2基、掘立柱建物2棟や溝、C地区では竪穴建物5基以上、掘立柱建物2棟、溝などが見つかりました。D地区では狭い範囲に竪穴建物3基が見つかりました。

竪穴建物SH85では、床面西側に焼土の痕跡があり、壁際には排水のための溝が掘削されていました。建物の外周にも溝を掘削し、山側から水が流れ込むのを防いでいました。建物の周囲では鉄滓が出土し、鍛冶が行われたと推定されます。周辺では、移動式のカマドや飯等の調理具が出土しています。また、C地区の竪穴建物の周囲ではフィゴの羽口や金床石が出土し、B地区と同様、鍛冶が行われたとみられます。



写真1 B地区 2号・4号・5号横穴墓(南東から)



写真3 D地区 3号横穴墓と出土遺物(東から)



前庭部の土器



写真4 B地区 竪穴建物SH85(東から)

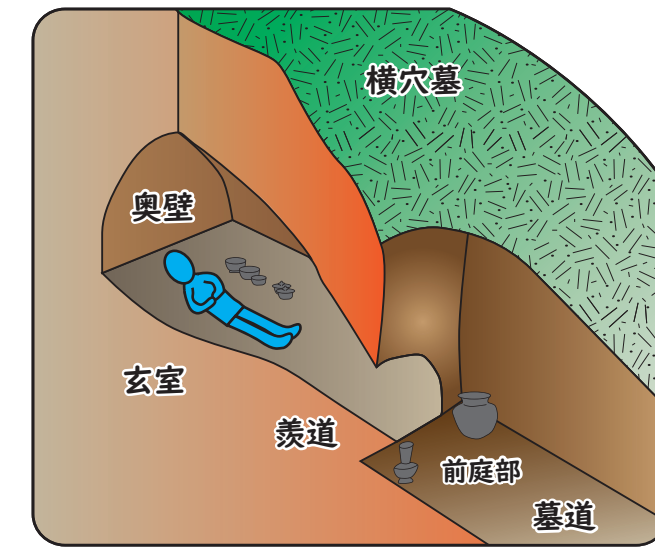


図3 横穴墓の構造



写真2 B地区 1号横穴墓(東から)

3. 集落から墓へ

谷部の西側斜面を中心に、飛鳥時代から奈良時代の横穴墓が5基見つかりました。横穴墓は、丘陵斜面や崖面に墓穴を掘ったもので、入口に至る墓道と遺体を納める玄室、その間を繋ぐ羨道からなります。

B地区の1号横穴墓は砲弾形の平面形をなし、玄室は長さ3m、最大幅1.25mを測ります。床面から追葬時に片付けられたと考えられる土器や鉄器が出土しました。また前庭部には短い墓道が付き、追葬の際にかき出されたとみられる鉄鏃や土器が出土しました。2号横穴墓も同様の形態ですが、墓道前面には平坦面が設けられ、甕などの土器が出土しました。4号横穴墓と5号横穴墓は、大部分は地滑り等により流失したと推定されます。D地区の3号横穴墓は、玄室の長さ1.5mと規模が小さく、平面形はフラスコ形を呈します。前庭部は「コ」字状に削り出され、壺や甕などの土器が出土しました。

横穴墓群は、出土遺物や平面形から、1号横穴墓が7世紀前半、2号横穴墓が7世紀後半、3号横穴墓が8世紀前半に築造されたと推定されます。横穴墓群は追葬や築造が行われ長く利用されたとみられます。